

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 計画

学校名	佐賀市立城北中学校		
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育目標や重点目標の達成に向け、各委員会・部会を中心に組織的な教育活動を行うことができた。 ・生徒同士の関わり合いを重視した教育活動、委員会形式による学校行事の運営等を通して、生徒の自己肯定感を高め、他者を思いやる豊かな人間関係づくりを推進することができた。 ・北辰タイムなどのコミュニケーション能力を高める取り組みによって生徒同士の関わりを深めることができた。 		
2 学校教育目標	夢の実現に向け、主体性をもって学び続ける生徒の育成		
3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・将来を見通したキャリア形成を目指す教育活動 ・校内研究を軸にした、主体的・対話的で深い学びを踏まえた学習指導の工夫・改善 ・城北中学校区3校の連携 ・自己肯定感を高め、他者を思いやる豊かな人間関係づくり ・不登校生徒の減少に向けた教育相談、生徒指導の充実 ・特別支援教育の充実 ・家庭・地域・関係諸機関との連携強化 		
4 重点取組内容・成果指標			
(1)共通評価項目			
	重点取組		
●学力の向上	○学習指導の工夫・改善を行った学びの質の向上	○『学び合い』の授業で学びが広がったや深まったと感じる生徒の割合80%以上 ○授業などでの振り返り活動が、自身の学びに対して効果的だと感じている生徒の割合80%以上、保護者の割合70%以上	・校内研究で『学び合い』の考え方や実践等について研修し、授業改善を図る。 ・単元シートを活用し、学習の見通しを持たせると同時に、振り返りを充実させることで、生徒自身が自分の学びを客観的に把握し、主体的に授業に取り組めるようにする。 ・異なる教科担当でチームをつくり、相互授業参観や研究授業を行うことで、授業改善を図る。
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○命を大切にすることや思いやりをもって生活していると回答している生徒80%以上	・道徳の授業を中心に、「学び合い」を行い、生徒同士の交流を大切に、自己肯定感や自己有用感を高める。 ・道徳科の授業づくりの充実に向けて、ローテーション道徳を実施し、全職員で取り組む。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止について組織的対応ができていると回答した教員100%	・月に1回、全校生徒に生活アンケートをとり、生徒指導部会での情報共有を行う。 ・いじめ、いのちの講話を年間7回、全職員で行う。 ・長期休業前にSNS等でのトラブルへの対応について全校集会等で意識付けを行う。 ・いじめの対応について、職員研修を行う。
	○不登校対策の充実	○不登校による欠席日数が30日以上の子どもの割合5%以下 ○Q-Uアンケートの学校生活満足の生徒の割合が2回目が年度当初より上回る。	・毎週1回「北辰タイム」(短時間グループワークアプローチ)に取り組み、人間関係づくりの強化を図る。 ・教育相談部会での共通理解・情報共有と、関係機関との積極的な連携を図る。 ・Q-Uアンケートの分析と活用について職員研修を実施し、生徒への具体的な支援に役立てる。
●健康・体づくり	②「望ましい生活習慣の形成」 ④「安全に関する資質・能力の育成」	②生徒会委員会活動と連携し、生活習慣の改善に向けた意識の変容を図る取り組みを学期に1回以上実施する。 ④児童生徒の交通事故を0(ゼロ)にする	○生活習慣に関するアンケートを実施し、よい生活習慣への意識づけを図る。 ○三点固定チェック週間の実施により、現状を把握し、各自が振り返る機会とする ○交通安全教室の実施。校区内の危険箇所や危険行為を生徒会から提案し、意識づけを図る
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減 ○職員間の連携促進	・定時退勤日、部活動休養日を設定する。 ・留守電(自動音声対応)への切り替えや、会議のペーパーレス化、健康観察アプリの導入を行う。 ・時間割を工夫し、年休を取得しやすい環境を作る。 ・長期休業中の積極的な年休取得を促す。 ・校務分掌の精選や、分掌事務の内容の見直し、スリム化を図ることで、個人に負担がかからないような手立ての工夫をする。 ・連絡掲示板を活用し、共通理解の時間の確保を行う。
●特別支援教育の充実	○特別支援教育の充実	○個別の支援計画等を活用して生徒の特性を理解し、積極的に共通理解・共通実践を行った職員の割合85%以上	・巡回相談などの専門的な視点を踏まえ、支援を要する生徒の情報共有を組織的、継続的に行う。 ・学校生活支援員、特別支援学級支援員と連携しながら、きめ細やかな支援を行う。 ・家庭との連携を密にして、より充実した支援を行う。
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目			
	重点取組		
●特別支援教育の充実	○インクルーシブ教育の推進	○インクルーシブ教育に関する研修を行い、アンケートで実践できていると答えた職員の割合80%以上	・校内にて、講師を招き実践事例などをもとにした研修を実施する。
	○小中連携の推進	○提示された学習課題に対して、自分の課題を設定し、自分一人もしくは仲間と協力して解決できたとアンケートで答えた生徒70%以上。 ○校区内3校の合同研修で教育実践を改善する意識が高まった職員の割合80%以上	・新入学説明会で中学校での学習スタイルを紹介し、中学校の学習の動機付けを行う。 ・小学校で北辰タイムを実施して、協力して問題解決するためのコミュニケーション力をつけ方を体験させる。 ・校区内3校の合同研修で、小中の教員間での情報交換を行う。

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育